



大切なつながり
輝く未来のために

厚真町長 宮坂 尚市朗

2021年の幕開けを迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解・ご協力を賜り、改めて心より感謝申し上げます。

和元年、2年と豊穣の秋を迎えることができ、改めて自然の恵みに感謝させていただきました。季節とともに移り行く田園の風景に、町民の皆さまも心癒され、励まされたことと思います。

胆振東部3町に未曾有の被害をもたらした胆振東部地震からすでに2年4カ月が経過しました。発災以降、全国・全道の行政機関などから多大なご協力と全国各地から物心両面への温かなご支援を賜りました。昨年の追悼式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、自由献花方式へ形を変えて実施しました。町民の皆さまには、犠牲になられた方々へのご冥福をお祈りしながらも、一様に厚真町の復興に向けて決意を新たにしていたと思います。

町内では、国、北海道、厚真町が実施する災害復旧工事も順調に進み、昨年7月には、統合浄水場の災害復旧工事が終了して全町域への給水を再開しました。また、仮設住宅などでご不便な生活を余儀なくされた多くの世帯は、昨年10月末から、完成したばかりの災害公営住宅などへ入居が進み、自力再建を果たされた皆さんも大勢います。仮設住宅の解体も加速し、市街地の景観は被災前の姿を取り戻しつつありますが、被災された皆さまの心の傷は、未だ癒えることなく、不安な日々を過ごされていると察しています。今後被災された方に寄り寄り添いながら、心のケアや地域コミュニティの充実を図らなければなりません。

現在策定を進めている第3期復旧・復興計画では、復興の主要コンセプトを「このつながりを未来へ」としました。豊かな自然や山林、何世代にもわたって受け継がれてきた夢や願い、落ち着いた田舎暮らしを求めて厚真町に移住してきた皆さんの想いを大切に、震災で傷ついたものは回復させながら、我々は新しい未来を創造していかなければなりません。基本方針には、「住まい・暮らしの再建」、「なりわい(仕事の再生)」、「災害に強いまちづくり」の3本の柱を設定し、復興フェーズの重点事項を中心に本町の復旧、復興の歩みを加速してまいります。

一方で、昨年来より、新型コロナウイルスは全世界で猛威を振るい、多くの犠牲者を出しながら、社会経済へ甚大な影響をおよぼしています。日本でも戦後初の「緊急事態宣言」が発出され、解除以降も社会活動は広く自制を求められています。繰り返される感染拡大は、経済活動や日常生活に深刻な不安をもたらしています。

本町では、町民の皆さんの感染拡大防止対策に対する理解と協力、迅速な対応により、落ち着いた状況が続いています。引き続き北海道スタイルの実践を継続していただくとともに、厚真町としても地域経済や社会的配慮者への対策をしっかりと

講じてまいります。新型コロナウイルス感染症や全国各地で発生する自然災害の脅威に、私たち一人ひとりでは抗う術を持ちませんが、社会システムにおいて防災、減災という視点や復元力を高める対策に引き続き粘り強く取り組んでいかなければなりません。

人類は災害や大戦、感染症などによる犠牲を払いながらも、幾度となく試練を乗り越え、それを契機として社会システムを改め、発展を遂げてきました。コロナ禍にあつて、新たな生活スタイルが求められるなか、本町では、今後、SDGsの理念やSociety 5.0ともいわれる技術革新の到来に向けた高度情報通信基盤の整備や自然エネルギーの地産地消事業などを展開し、さまざまなイノベーションを取り込みながら新しいまちづくりに挑戦してまいります。

大きな災害を経験した厚真町ですが、その中から生まれた数多くの「つながり」を大切にしながら郷土あつまを再び輝かせ、町民が心からの笑顔を再び取り戻す日まで、皆さまと連携して、復旧・復興の道をたくましく歩み、その先にある北海道のオンラインワンを目指して全力投球してまいります。重ねて皆さまのご理解とお力添えを賜りますようお願いいたします。結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

町民の皆さま新年おめでとございます。

厚真町議会を代表いたしまして、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。旧年中は町議会に對しまして、温かいご支援、ご指導を賜り心から厚くお礼を申し上げます。

今春は特別な年であり、帰省を控えられ家族がおそろいになられていないご家庭もあるかもしれませんが、町民の皆さまには夢多き初春を健やかに迎えのことと心から喜び申し上げます。

そして、何よりも北海道胆振東部地震から3度目の新春を迎えますが、約2年にわたり応急仮設住宅で不自由な生活を送られていた方々が、新しい住まいで年越しをされたことは議員一同喜びに堪えないところであります。

震災からの復旧・復興から3年目となりますが、今もなお、多くの方々を支えられていることを実感してい

ます。朝夕に目にするかくも多くの作業車の長い車列、寒風が吹きさらす中での懸命な復旧作業、命綱を結びながら崩落した斜面で作業をする重機や作業員の方々の姿を拝見するときに、感謝の気持ちでいっぱいになります。どうか今後もお力添えを賜るとともに、作業員の方々の安全と健康を切に願っております。

さて、昨年を振り返ると、日本では2月初頭からクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号から端を発した新型コロナウイルス感染症拡大が、瞬く間に国内をはじめ世界的に猛威をふるい、コロナ禍に終始した一年でした。それを反映して、一年の世相を象徴する「今年の漢字」は、3密の回避などに起因する「密」が選ばれました。科学や医療が発展していると思っていた現代社会において、疫病が流行し人類を蹂躪するとは誰しも想像だにしていなかったところであり、震災を経験した私たち厚真

町民にとっては、改めて自然への畏怖の念を感じてやまないところです。

しかし、私たち町民は、自然災害や疫病に屈することなく、先人の汗と涙のご苦労と、先代の英知と努力で築き上げられた住みよく美しい田園風景が広がる厚真、また、健康で文化的な生活を送ることができる尊さ、この空気や水と同じく普遍的に考えていたものを今一度掛け替えないものとして再認識するとともに痛感したところでもあります。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、一年延期となった東京オリンピック・パラリンピックが、ワクチンの接種や治療薬の奏功によりコロナ禍が終息し、開催されることを願っております。何よりも被災地であった胆振東部3町(厚真・安平・むかわ町)を舞台にした北海道聖火リレーでは、郷土のランナーによって聖火の灯火が颯爽と元氣よく駆け抜けることによって、胆振東部地震から復旧が進み、復興にまい進している厚真・安平・むかわの被災3町の姿が内外に発信されることを願わずにはいられません。

このようなか、町議会は、昨年6月に執行された町議会議員再選挙において、欠員となっていた1人が当

選し議員定数(11人)を満たすことができました。我々議員の使命は、町民の声に真摯に耳を傾け、ともに話し合い、民意を町政に反映させること。また、政策形成や多様な町民の方々の意見の集約・反映、利害の調整などを通じて、意思決定機関として、加えて、執行機関の監視・評価機関としての役割を十分に発揮しながら、町民の皆さまの福祉の向上および町政の発展に寄与していかねればなりません。大きな都市では決してまねの出来ない、お互いの顔が見合える機会が多いスマートフォンスケールのわがまちのメリットを最大限に発揮して、町民、行政、議会が一丸となつてこの難局にあたり、それらを乗り越え次世代の史実に歴然と記述されていくこの時代をともに歩んでいきたいと思っております。

結びに、今年の干支は丑。丑は幸せを運んでくる動物と言われているそうです。「禍を転じて福となす」、「明けぬ夜はない」を合言葉に、どうか町民の皆さまには、本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。何にも増して健康で幸多き年となることをご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



町民、行政、議会が一丸となつて難局に向かう

厚真町議会議長 渡部 孝樹

公職選挙法の規定により、議員から町民の皆さまへの年賀状は失礼させていただきます。